

CALCON·ICCT 2018 に参加して

2018 年 8 月 5 日～10 日の期間、アメリカ合衆国カリフォルニア州の Tahoe 市にて CALCON·ICCT 2018 が開催されました。本会議は、主としてアメリカ合衆国で開催されている Calorimetry Conference (CALCON) と世界各国で開催されている International Conference on Chemical Thermodynamics (ICCT) の 6 回目のジョイントミーティングです。物性物理化学研究室からは、山下がスピン液体セッションにて“Systematic Heat Capacity Measurements for Quantum Spin Liquid Phase in Dimer Mott System”というタイトルで分子性導体における量子スピン液体の熱容量挙動についての招待講演を行いました。ジョイントミーティングということもあり、主として CALCON で発表される固体系の電子物性や磁気物性、液体ガラス等のテーマに加えて、反応熱系や工学系のテーマなど多種多様なセッションが開かれました。反応熱系などでは、非平衡現象を観測する即時・高速測定用デバイスに MEMS (微小電気機械システム) 技術などを使用した研究発表などがあり大変参考になりました。

会場となったのはアメリカ合衆国で二番目に深い淡水湖であるタホ湖西岸に位置する Granlibakken というロッジタイプのホテルです。タホ湖はカリフォルニア州とネバダ州の州境に位置する湖で、湖岸線の 3 分の 2 はカリフォルニア州に属しているのですが、最寄りとなるリノ空港はネバダ州の管轄です。このため、空港では華やかな雰囲気ของ バスが多数停車しますが、西岸へのバスはほとんどなく、会場にはホテルが手配したシャトルかタクシーを使用する必要があります。口頭講演・ポスター講演ともにメインロビーがあるロッジで行われましたが、ほぼ平屋建ての平坦な構造に加えて、一回建物外に出てから入るか、他の会場を通り抜けないとたどり着けない会場もある複雑な構造でした。元々大規模な会議を行うような会場ではなく、どちらかといえばホテルが面しているタホ湖に訪れるバカンス用の施設であることも理由かもしれません。一方で、標高が高く大きな湖が近くにあるためか、8 月の真夏であるにもかかわらず最高気温は 28 °C 前後で湿度も低いため、同時期の日本と比べると過ごしやすい気候でした。ちょうど、カリフォルニア州で発生していた大規模な山火事と時期が重なっていましたが、スモッグの影響などはなくほとんどの日が快晴でした。会場からは徒歩 20 – 30 分ほどで市街やタホ湖岸へのアクセスが可能です。市外へ向かう途中には飲食店がほとんどないため、昼食に関してはどうしてもホテルで取る必要がありました。簡単なバーを除いてレストランは設置されておらず、すべての食事は会議で提供されるビュッフェスタイルの食事以外の選択肢はなく、バンケットに関しても会場は同じで、料理もビュッフェスタイルで提供されたものとおおよそ同じ質の料理がサーブされるという形でしたが、全日程の食事全てが美味しく、会場外での食事の必要性は全く感じませんでした。バンケット以外では外のテラスで食事をするスタイルでしたが、雨が降らなかったため不便はありませんでした。バンケットにおいては、今後も本会場で継続的に CALCON が開催される可能性が高いというアナウンスもありました。

全体としてはとても過ごしやすい環境で、各セッションの発表や空いた時間でのディスカッションに十分に集中することができ、とても良い刺激になりました。特に、上述した MEMS 技術や液体系のダイナミクスに関する発表では、スピン液体や熱測定の観点で大変参考になる有意義な会議でした。

(山下智史)

